

(毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行)

縣報

第三百十七號

明治三十七年五月三日

和歌山縣

○公文

○和歌山縣訓令甲第二十五號

郡	役	所
警	察	署
警	分	署
市	役	所
町	役	場

戰役ニ對スル防疫上ノ施設ニ關シテハ屢々訓達セシ處コレテ目下夫々措置中ニ屬スト雖就中現時腸窒扶斯ハ各地ニ流行シ又赤痢ノ如キハ季節ニ伴ヒ漸次發生蔓延ノ兆アリ而シテ客年縣下ノ腸窒扶斯患者ハ百六十六名ノ多キニ達シ療養延日數三千七百二十七日ニ涉リ赤痢病亦四百一名ノ患者發生シ療養延日數六千二百二十五日ニ涉リ其流行區域ハ何レモ全縣下ニ彌蔓シ恰モ地方病ノ觀ヲ呈シテ流行ヲ繼續シ特ニ該病ハ經過水日ニ涉リ被害最モ激甚ニシテ若シ該病ノ流行ヲ反覆スルカ如キコトアラハ縣民ノ生産力ヲ衰頹萎靡セシメ惹テ軍隊ノ行動ニモ至大ノ關係ヲ及ホシ戰鬪力ヲ減殺スル等其危害ノ程度測ルヘカラサルモノアリ此際一層嚴重病毒ノ豫防撲滅ヲ圖リ清潔法ノ持續ヲ履行スルハ勿論有碍地ニ於テハ豫防消

縣報第三百十七號

明治三十七年五月三日

第三種郵便物認可

毒ヲ嚴施シ檢病的戸口調査ヲ行ヒ速ニ患者發見ノ方法ヲ盡シ敏活ノ處置ヲナシ有病地ト交通アル地方ニ於テハ出入者ノ健否ニ注意觀察ヲナシ病毒ノ浸入ヲ防キ防疫上遺策ナキ時期スヘシ

明治三十七年四月三十日

和歌山縣知事

伯爵

清棲家 教

○和歌山縣告示第百十九號

縣下海草郡加太町字雄瓦所在海軍用地地先海面別圖朱点線ノ區域内ニ於テ本年四月下旬ヨリ來ル八月迄午前ヨリ午後六時迄ノ間隨時ダイナマイトヲ使用シテ海底ノ岩石ヲ掘鑿ス同所航行ノ船舶ハ注意スベシ

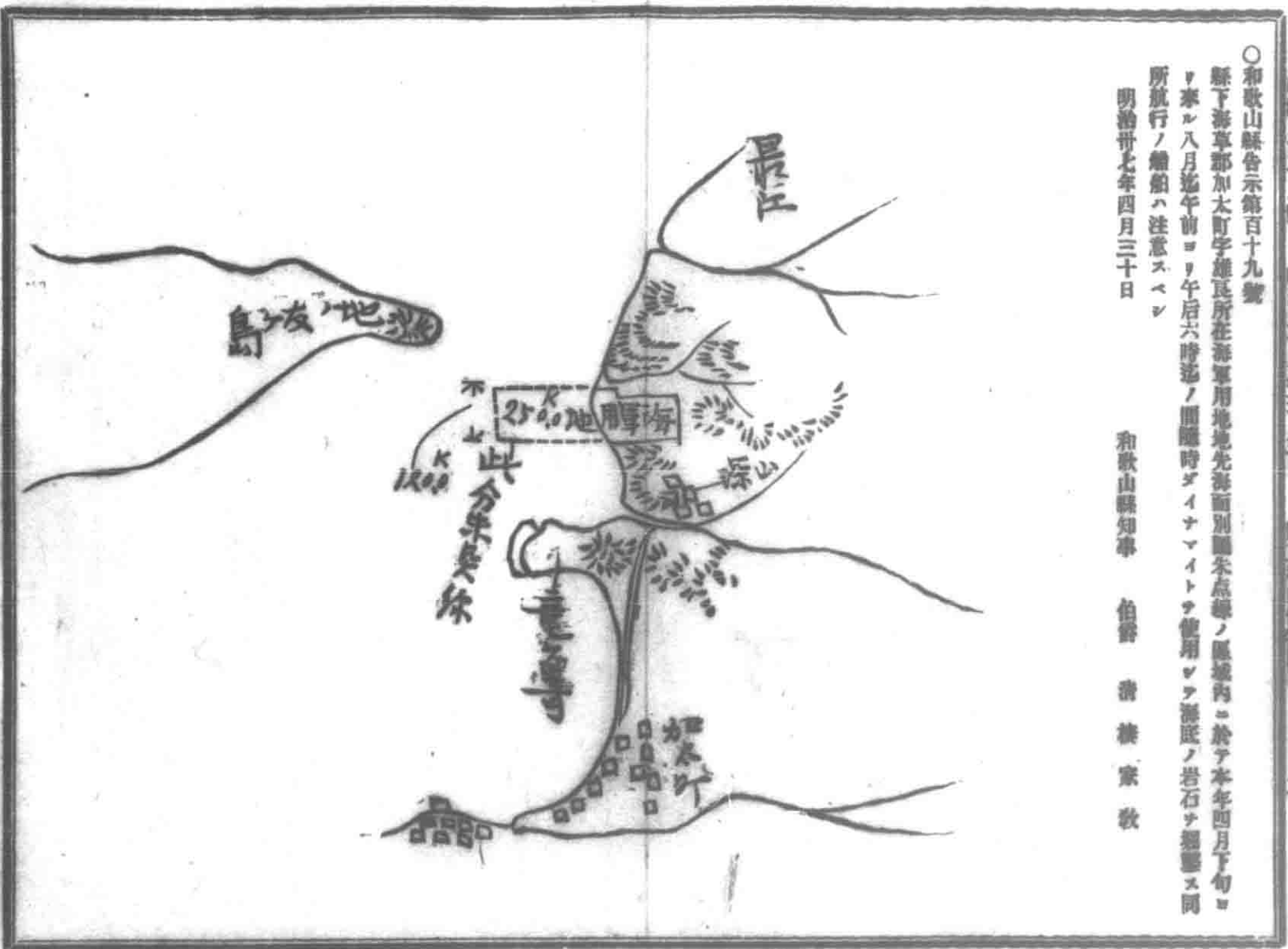
明治卅七年四月三十日

和歌山縣知事

伯爵

清

家 敬



○和歌山縣告示第百二十號

本年四月農商務省告示第九十號水產講習所傳習規則及水產講習所傳習諸規程ニ據リ水產講習所本科、現業科生徒募集相成候付志願者ハ別紙事項熟得ノ上當圖ヲ經テ出願スヘシ
明治三十七年四月三十日 和歌山縣知事 伯備 清 樓 家 敬

水產講習所入學案内

入學志願者心得

入學手續

募集及入學期 學生ノ募集ハ毎年四月官報及新聞紙ヲ以テ廣告ス入學許可ノ上ハ保證人ヲ定メテ在學證書ヲ差出シ本科ハ九月十日ヨリ現業科ハ別ニ指定スル日ヨリ入學ヲ許ス
入學願者ノ提出 入學ヲ願出ツルモノハ式ノ如ク願書ヲ認メ(規則中書式参照)前年一月以後自己一人撮影セル手札形寫眞(寫眞ニ志願科、現業科、氏名)ヲ添ヘ東京ニテハ本所ニ地方ニテハ其地方廳ヲ經由シ五月一日ヨリ同末日迄本所ニ到達スル様差出スヘシ
現業科ノ專修科目及入學期 現業科ノ學科目ハ漸次増加スルノ目的ナリト雖モ目下製造科ニ於テ壓節類、罐詰、油蠟、沃度ノ科目ニ就テ募集シ其入學ノ期ハ節類ハ七月罐詰ハ九月油蠟及沃度ハ十月ヨリ科業各三四ヶ月ノ豫定ナルモ時宜ニヨリ之ヲ伸縮又ハ變更スルコトアルベシ

入學試業及ヒ其場所 入學試業ハ毎年六月東京ニテハ本所ニ於テ地方ニテハ其地方廳ニ依頼シ同一ノ時間例ニヨリ試業シ其際身體検査ヲ行フ

縣報第三百十七號

明治三十七年五月三日

第三種郵便物認可

三

入學許可 入學ノ許可ハ入學試業終了ノ後東京ニテハ直接又ハ本所ノ揭示ヲ以テ地方ニテハ受驗シタル地方廳ヲ經テ本人ニ通達ス

在學證書 在學證書ハ入學許可ノ上其年九月十日迄ニ差出ス可シ(規則参照)用紙ハ本所ニテ交附スベキニヨリ之ヲ受取リ(地方在住者ハ受驗セル地方廳ヨリ受取リ)父兄若ハ學資支給人地方在住者ナルトキハ先其連署ヲ求メ向ホ東京市ニ於テ公民權ヲ有セルモノ一人ヲ保證人ト定メ連署ノ上區長ノ證明ヲ得テ本所ニ差出スヘシ

入學志願者ノ注意スヘキ要件

專修科ノ選擇 本所ノ專修科ハ漁撈科、製造科、養殖科ノ三ニ分レ各科特異ノ性質ヲ具フ而シテ專修科目ノ選擇ハ終生一身ヲ委スベキ業務ヲ定ムルニ在レバ熟慮ヲ要スベシ事業成功ノ要素ハ其人ノ性格ニヨリ異ナルモノナレバ各自自己ノ性質カ果シテ新業ニ適當ナリヤ否ヤナ考フルコト最モ必要ナリトス

本所ノ參觀 本所ノ事業ヲ了解シ分科ノ特質ヲ熟知セザルカ爲メ前項ノ所信ヲ確定スルコト能ハサルモノハ其志望ニヨリ本所ノ參觀ヲ許可スベキニヨリ本所事務掛ニ其旨ヲ申出ツヘシ

身體検査 何レノ事業モ身體強健ナルヲ必要トスルハ勿論ナリト雖モ漁撈科ノ如キハ特ニ強健ナルモノニアラザレバ其業務ニ堪ヘサルベシ故ニ身體ノ検査ハ最モ重キヲ置キ特ニ漁撈科ニ在リテハ強度ノ近視及身長五尺ニ充タサルモノハ採用セス故ニ先ツ相當ノ醫師ニ就キテ身體ノ健否營養ノ良否疾患ノ有無殊ニ呼吸器血行器病等ニ就キテ診斷ヲ受ケ

不完全ナル體格ナルヲ知リタルモノハ舉ニ始メヨリ出願セサルヲ可トス

地方受験者ノ身體検査 地方受験者ノ身體検査ハ體格検査(規則第五號書式参照)ニヨリ檢定スルニ止マレバ假令學科ノ試業ニ合格スルモ上京出所ノ上更ニ身體ヲ検査シ不適當ト認ムルトキハ其入學許可ヲ取消スコトアルベシ

現業科志望者 現業科ハ營業者又ハ其子弟ヲシテ入學セシメ從來各自カ探レル事業ヲ學理的若クハ一層完備セル施設方法ニヨリテ練習セシメントスルニ在レバ其學修モ速成ヲ旨トセリ然ルニ入學者ノ往々實地ノ素養ニ乏シク明ニ該科生徒タルニ適セサルモノアリ此ノ如キハ元來本所カ養成セルトスル目的ニ適合セザルノミナラズ教授上差支ナ生スルコト少カラザレバ始メヨリ此點ニ注意アリタシ

入學ノ禁止 入學者中往々他ノ學校ニ於テモ入學ノ試験ヲ受ケ一方ノ試験ニ合格セハ他ノ一方ノ入學ヲ取消ス等ノ所爲アルモノアリ如斯ハ畢竟志操鞏固ナラス且不徳義ノ甚シキモノナレバ何方共其入學ヲ取消サルベシ

徵兵猶豫 入學ヲ許可シタルモノハ徵兵令第二十三條第一項ニヨリ當然徵兵ヲ猶豫セラルベキモノナルニ依リ必要アルモノハ願ニヨリ入學許可ノ證明書ヲ附與スベシ

學科豫習上ノ注意

入學志望者ニシテ他ノ諸點ニハ適合スルモ學業ノ點ニ於テ留意スベキコト少ナカラズ則本所ニ於テ各分科ニ通シテ必要ナルハ數學、物理、化學、動物及外國語トス

數學 實業ノ學科ニ於テハ百般ノ設計營業ノ計算ニ特殊ノ必要アルノミナラズ漁撈ニ於テ

ハ航海ニ製造ニ於テハ機械學ノ學修ニ殊ニ直接ノ關係ヲ有ス又別シテ實業者ニ必要ナル經濟ニ關スル思想ト正確ナル推理トハ此學修ニヨリテ養成セラル、モノナレバ該科ノ修養ハ最モ希望スル所ナリ

物理化學 日進ノ事業ハ一ニ該科ノ應用ニヨル水産ノ事業モ亦之ニ外ナラサルベシ殊ニ製造科ニ於ケル化學ハ其骨子トモ云フベキヲ以テ能ク其理論ト應用ノ關係ヲ了得セザルベカラズ故ニ入學者ニ在テハ其素養ノ深淺ニ重キヲ置キ在學中ハ最モ意ヲ注クベキ學科ノ一ナリ

動物學 魚貝類ノ習性及發育ノ狀態ヲ知リ之ニ適應スルノ處置ヲ施スハ是水産家ノ本分ナルベシ其本分ヲ全セント欲セハ大ニ動物學ノ智識ヲ要ス殊ニ養殖ノ事業ハ斯學ノ應用多キニ居ルヲ以テ特ニ該科ノ學生ヲラント欲スルモノハ一層ノ留意ヲ要ス

外國語 文明日進ノ技術ヲ先覺シ汎ク新智識ヲ外國ニ需メントスルニハ該科學修ノ力ニ待ツノ外ナカルヘシ然レトモ本所ニ於テハ修學セシムヘキ學科甚タ多キヲ以テ該科ノ如キハ入學前ノ素養充分ナルモノヨリ選擇スルノ外ナキナリ

以上ハ其大要ヲ學ケタルノミ其他ノ學科ト雖モ相關聯セルモノ多キニヨリ普通學ノ素養ハ最モ必要トスル處ナリ

入學後ノ心得

本所ノ學生ハ實力アル技術者ヲ養成スルニ在ルヲ以テ實地ノ作業ニ從事スルコト多ク或ハ船舶ニ乗組ミ漁夫水夫ト相伍シ或ハ夜ヲ徹シテ業ニ從事セザルベカラサルコトアリ茲ニ於

テ勞働ヲ嫌厭シ身ヲ安逸ニ處セントスルモノ、如キハ本所ノ旨趣ニ反ルヲ以テ豫メ其旨趣ヲ辨知スルヲ要ス

學費 在學中學費缺乏シテ學業ヲ中絶スルモノ其例ナキニアラス故ニ豫メ學費支給ノ途ヲ確定シ置クハ勿論ノコトニシテ又在學中ハ勤儉節約嚴ニ浪費ヲ禁スベシ
本所ニ於テハ授業料ヲ徵集セス又實習ノ爲メ地方ニ出張ヲ命スルトキハ其往復旅費ノ實費ヲ支給シ且實習及實驗ニ要スル材料器具機械等ハ一切之ヲ貸附若クハ使用セシムベシ故ニ學生ノ各自在學中自辨スヘキ學費ノ概算ハ左ノ如シ

	第一學年	第二學年	第三學年
食料	31,000	31,000	31,000
寄宿舍賄料	1,000	1,000	3,000
書籍及筆墨	24,000	24,000	23,000
學友會費	1,800	1,500	1,800
諸雜費	18,000	18,000	18,000
被服	28,000	28,000	28,000
制服、制帽、外 袴、靴下等	6,500	6,500	6,500

縣報第三百十七號 明治三十七年五月三日 第三種郵便物認可 五

器具毛布	合計
110,000	1,211,000
141,000	1,352,000
157,000	1,509,000

一ヶ月平均 141,000 111,250 131,133
尚漁撈科ノ生徒ニ在リテハ第三學年ニ於テ右ノ外雨具一着(五圓五拾錢)ヲ要ス
卒業者ノ狀況

本所ノ卒業者ハ自ラ實業ニ從事スルヲ望ムト雖モ今日ハ其數甚多カラズ尙ホ漁撈科ニ在リテハ漁船ノ運用漁撈長等ノ職務ヲ執リ製造業原料ニ在リテモ亦技術者トシテ新業ノ要衝ニ當リ諸種ノ經營ニ與リ以テ新業ノ改善發達ニ任スルモノ半數以上ヲ占ム然レドモ自ラ水産業ヲ經營施設シ實業界ニ位階ヲ造ルモノ亦決シテ少カラズ
明治三十七年四月 水産講習所

生徒募集
一本年改正規則ニヨリ本科並ニ現業科生徒ヲ募集ス
募集人員
本科 五十名

内
漁撈科 二十名
製造科 二十名

養殖科

十名

現業科

十名(鑑詰事務)

本科入學ニ關スル件

- 一、本科入學者資格ハ中學卒業若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ年齡滿十七年以上ノモノ
 - 一、入學試業ハ中學卒業ノ程度ニ依リ左ノ學科及資格ヲ試験ス
 - 一、讀書 國語漢文
 - 一、作文 漢字交リ文 日本文
 - 一、動物學
 - 一、植物學
 - 一、物理學
 - 一、化學
 - 一、地理 日本地理及外國地理
 - 一、數學 算術、代數、幾何、三角術
 - 一、外國語 (英語)英文和譯、和文英譯、文法
 - 一、圖畫 自在畫
 - 一、入學試業ハ來六月九日ヨリ本所及地方廳ニ於テ施行ス
 - 一、入學願書差出期日 五月一日ヨリ同月廿五日マテ(現業科ハ十五日マテ)
- 本所ニテ受験ヲ望ムモノハ直接本所ヘ其他ハ受験希望ノ地方廳ヲ經由シテ入學願書差

縣報第三百十七號

明治三十七年五月三日

第三種郵便物認可

六

出テ要ス

- 一、入學願書ニハ昨年一月以後自己一人撮影セル手札形寫眞(寫眞ニ志望科候補生年
月ヲ自書シタルモノ)ヲ添付ス
 - 一、入學試業ノ方法及受験者心得等ハ別ニ定ムル所ニヨル
 - 一、修業期六月一日ヨリ十月三十一日マテ
 - 一、入學者試業ヲ要セスニケ年以上水産ノ實業ニ從事シタルモノ若ハ其ノ子弟ニシテ年齡滿二十年以上三十年以下ノモノ
 - 一、應募者募集人員ニ超過シタル場合ニハ本人ノ履歷ト地方ノ狀況等ニヨリテ撰拔ス
 - 一、入學志願者ハ可成詳細ナル履歷及體格検査書ヲ願書ニ添ヘ地方廳ヲ經テ差出ヘシ
- (注意)改正規則ハ本年四月十二日官報三四二頁及三四九頁ニアリ

水産講習所

○實習規程

- 第一條 實習ハ本所及ヒ實習場實習船又ハ本所指定ノ場所若ハ船舶ニ於テ從事セシム
- 第二條 實習ノ事項及期限ハ學科課程ニ準據シ之ヲ定ム
- 第三條 實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ其往復ノ旅費ヲ支給ス
- 但遠洋漁業科生徒ニハ旅費ヲ支給セス
- 第四條 實習ニ付テハ擔當教官又ハ特ニ設ケタル監督者ノ監督ヲ受クベシ

第五條 各組ニ組長副組長各一人ヲ設ケ其ノ組員ニ對スル通達其他ノ實習ニ關スル諸般ノ整理ニ任ヒシム

第六條 實習中ハ規定ノ實習服ヲ着用スヘシ

第七條 實習シタル事項ニ付テハ指定ノ期間内ニ其ノ報告書ヲ作成シテ擔當教官ニ出スヘシ但シ遠洋漁業科生徒ニ在リテハ水産講習所傳習規程第五十條及第五十一條ニ依ル

第八條 實習中報酬手當ノ類ヲ贈與セントスルモノアルトキハ其事由ヲ所長ニ具申シ認可ヲ得ルニアラザレハ之ヲ受領スルヲ得ス

○生徒心得

第一條 本所々定ノ條規ニ準據シ學生ノ體面ヲ汚スカ如キ行爲アル可カラズ

第二條 本所ノ制服及制帽ハ入學後一ヶ月以内ニ於テ調製シ之ヲ着用スヘシ

第三條 事故ニ依リ制服又ハ制帽ヲ着用スルコト能ハサル事情アルトキハ豫メ時日ヲ限り寄宿生ハ生徒取締通學生ハ保證人連署ヲ以テ願出許可ヲ受クヘシ

第四條 控所ノ外賣舍内ニ於テハ喫煙スヘカラス

第五條 通學生ハ許可ナクシテ寄宿舍ニ出入スヘカラス

第六條 告示ハ掲出ノ日ヨリ一般ニ了知シタルモノト認ムヘキカ故ニ常ニ揭示ニ注意スヘシ

第七條 學術研究又ハ實習ノ爲メ出張ヲ命ジタルトキハ出發場所共ニ届出ヘシ

○寄宿舍規程

第一條 寄宿生ハ生徒取締ノ監督ヲ受クヘシ

轉錄第三百十七號

明治三十七年五月三日

第三種郵便物認可

七

第二條 寄宿生ハ規律衛生等ニ關スル規約ヲ設ケ所長ノ認可ヲ經テ實踐スヘシ

第三條 寄宿舍ハ毎年九月十日ニ開キ翌年七月十一日ニ閉ク

第四條 毎朝夕所定ノ時限或ハ臨時ニ人員點檢ヲ受クヘシ

第五條 寄宿生ハ左ノ時限ノ外ハ外出スルヲ許サズ

- 一 平日ハ終業時午後九時迄土曜日ハ午後十時迄
- 二 休業ハ日午前點檢後ヨリ午後十時迄

但事宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

第六條 外泊又ハ時限内ニ歸舍シ難キ事情アルモノハ豫メ保證人連署ヲ以テ願出ヲ許可ヲ受クヘシ

第七條 但至急ヲ要スル場合ハ口頭又ハ書面ヲ以テ生徒取締ノ許可ヲ得後本條ノ手續ヲナスヘシ許可ナク歸舍ノ時限ニ後レ又ハ外泊シタルモノハ其事由ヲ詳細シ保證人連署ヲ以テ届出テ其處分ヲ待ツヘシ

第八條 入舍又ハ退舍セントスルモノハ規定ノ用紙ニ認メ保證人連署ノ上願出ツヘシ

第九條 管理上ノ便宜ニヨリ寄宿生ヲ數部ニ分チ各部ニ部長副部長各一人ヲ置キ寄宿舍生徒取締ノ指揮ニ從ヒ部内一般ノ取締ニ任ス

第十條 物品ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ其ノ情狀ニヨリ之ヲ修補又ハ辨償セシム

第十一條 寄宿舍食費等ハ毎月五日迄ニ生徒取締ノ檢證ヲ經テ支拂フヘシ期日ヲ經過スルモ拂入レサルトキハ其情狀ニヨリ退舍ヲ命ス

第十二條 外來人トノ面會ハ應接所ニ於テスヘシ
第十三條 舍内ニ於テハ和服ヲ用ウルコトヲ得

書式

第一號書式(用紙美濃紙)

入學願書

私儀御所本科何々科(現業科)へ入學(何々專修)志願ニ付御試業ノ上(現業科ニハ御試業ノ上ヲ省ク)御許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

本籍族家業

某男、子弟等

何

某 印

何年何月何日生

年月日

宿所(東京云々)

水産講習所長某殿

第二號書式(用紙美濃紙)

入學願書

一何々(研究ノ事項)

私儀何年何月御所何科卒業致候處尙前記ノ事項ニ就キ何年間在所研究致度候間御詮議ノ上入學許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

縣報第三百十七號

明治三十七年五月三日

第三種郵便物認可

八

本籍族家業

某男、子弟等

何

某 印

何年何月何日生

年月日

宿所(東京云々)

水産講習所長某殿

第三號書式(用紙美濃紙)

履歷書

學業

一何年月日何地官(公私)立何學校ニ入り何學科何學年級修業或ハ全科卒業

一何年月日何地何某ニ從ヒ何年間何學修業用書何々(卒業證書ヲ有スル者ハ其寫及校長ノ證明書ヲ添ヘ實業ニ從事シタルモノハ其履歷ヲモ記入スベシ)

賞討

一何年月日何所ニ於テ何賞討ヲ受ケタル事

右之通相違無之候也

年月日

何

某 印

第四號書式(用紙美濃紙)

(印紙貼用)

在學證書

私儀今般何々科へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則等固ク遵守シ専心勉勵卒業ニ至ル迄
猥リニ退學等致ス間敷候仍テ在學證書如件

本籍 某家業
某男、子弟等

年月日

何年何月何日生
某 印

宿所(東京云々)

右某今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則等固ク相守ラセ且本人ニ係ル一切ノ事件ハ私
共ニ於テ引受可申ヘ勿論御所趣意ノ旨ヲ體シ平素督勵可致候仍テ保證如斯候也

旅籍職業(學生トノ關係)

保證人 何 某 印

何年何月何日生

宿所

旅籍職業(學生トノ關係)

保證人 何 某 印

何年何月何日生

水産講習所長某殿

前書保證人某ハ當區公民ニ相違無之候也

何 區 長 印

第五號書式(用紙美濃紙)

體格検査書

族籍某男、子弟等

何 某

何年何月何日生

一 體 格

(甲、乙、丙)最モ強固ナルモノヲ甲トシ之ニ亞ラロノヲ乙トシ現ニ病弱ナ

一 體 質

(強健、稍弱、弱)特別ナル事項ハ其條件ヲ記ス

一 身 長

(何尺寸分)

一 體 重

(何貫匁)

一 胸 圍

(何尺寸分)常時、充盈、空虚及其差

一 肺 活 量

(何千何百立方センチメートル)

一 視 力

(何々)スタレルン氏ノ檢視法ニ依リ左右共某中心視力ヲ檢シ辨色力眼

一 聽 力

疾ヲモ検査スベシ

一 神 經 系

(尋常、過敏、遲鈍)左右兩耳ニ就キ傾中時計ニテ可及的其聽取ノ最遠距離ヲ測定シ
センサノトトルニテ記入シ前際答ノ有無及其疾ヲ検査スベシ

一呼吸器
 一血行器
 一皮膚其他
 一香、柱
 一齒、牙
 一痘
 一已往現在ノ疾病又ハ畸形
 年月日

公立病院醫(病院ナキ地方ハ内務省免許醫)
 何 某 印

○辭 令

○明治三十七年四月二十八日
 會計検査院へ出向ヲ命ス

警 部 新 谷 清 潔

○觀 測

明治三十七年四月廿八日ヨリ三日間當地氣象概況

縣報第三百十七號

明治三十七年五月三日

第三種郵便物認可

十

種・類	四月廿八日		四月廿九日		四月三十日	
	前年	本年	前年	本年	前年	本年
平均氣壓	七六一・一	七六五・九	七五七・七	七六五・二	七五九・九	七六〇・四
平均氣溫	一五度九	一七度八	一五度九	一六度一	一四度七	二一度九
最高氣溫	二〇度七	二二度九	一八度四	一八度八	二〇度四	二五度四
最低氣溫	九度三	一三度五	一三度四	一〇度七	一〇度五	一七度七
最多風向	北東	西南西	南	東南東	北々東	南々西
平均風力	二米八	二米五	三米九	二米五	三米五	六米二
天氣	晴	晴	雨	雨	晴	曇小雨
雨雪量	、	、	四一耗八	二耗四	、	〇耗〇
記事	、	、	終日降雨 斷續午前 九時〇分 海上風雨	午前九時 二〇分海 上風雨ノ 警報着電	午前十時 海上風雨 警報ヲ解 除ス	終日時々 微雨午後 四時ヨリ 全五時五

可傳物便郵種三第日八月五年三十三治明

明治三十七年五月三日 第三種郵便物可 十一終

		着	ノ書報到
	雨	日時々降	午前九時 半ヨリ終
			十分迄雨 々四ノ強 風

（毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行）

明治三十七年五月二日印刷
明治三十七年五月三日發行

（金銀紙）

和歌山縣

和歌山市久保町一丁目一番地
印刷所 和歌山市久保町一丁目一番地
印 刷 所 和歌山市久保町一丁目一番地
都 部